

CONTENTS

●創刊の辞（斧谷彌守一）	2
●1999年度学術フロンティア・シンポジウム報告	
シンポジウム企画趣旨 （森 茂起）	5
主体の主体性としてのtrauma （港道 隆）	9
トラウマ記憶と子どものプレイセラピー （西澤 哲）	17
映画における記憶とトラウマの表象 （加藤幹郎）	27
外傷性記憶とその治療 — 一つの方針 （中井久夫）	37
パネルディスカッション「トラウマ—記憶と証言—」	47
●投稿論文	
茶湯における心理療法的意味について （友久茂子）	65
アート創作の治療的意義についての考察（1） —Edith Kramerのアートセラピー理論を手がかりに— （内藤あかね）	77
失敗した写真 —ゲルハルト・リヒターの場合— （青山 勝）	89
他者に想いを綴ること —『親ノート』の試みから— （三宅理子）	107
傷をめぐる語り —トラウマと心的現実— （久松睦典）	123
●公開シンポジウム「世話・治療・サポート」	
『世話・治療・サポート —その新たな展開の可能性を探る—』 （羽下大信）	137
●論文翻訳	
大人と子供の間の言葉の混乱 —やさしさの言葉と情熱の言葉— シャーンドル・フェレンツイ（訳 森 茂紀）	163
●1999年度学術フロンティア推進事業活動報告	175